

2024. 8. 8

2024年度 第1四半期 決算説明

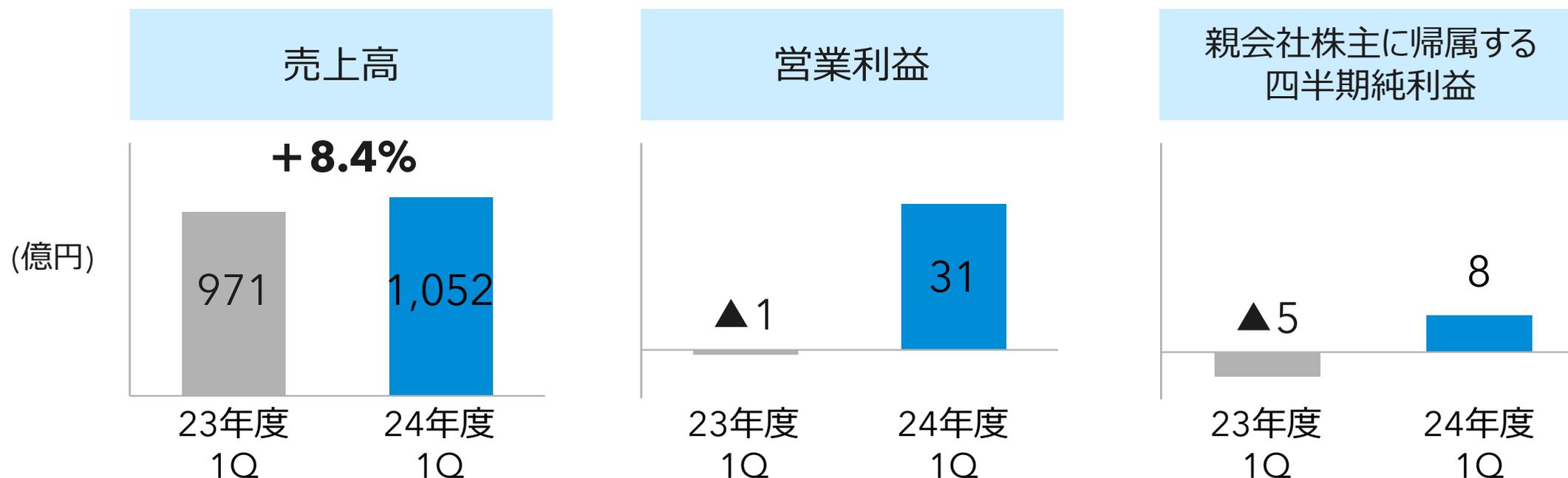
東洋紡株式会社

第1四半期 実績

液晶偏光子保護フィルム、LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置は堅調に推移し、増収。

営業利益は 31 億円、四半期純利益は 8 億円

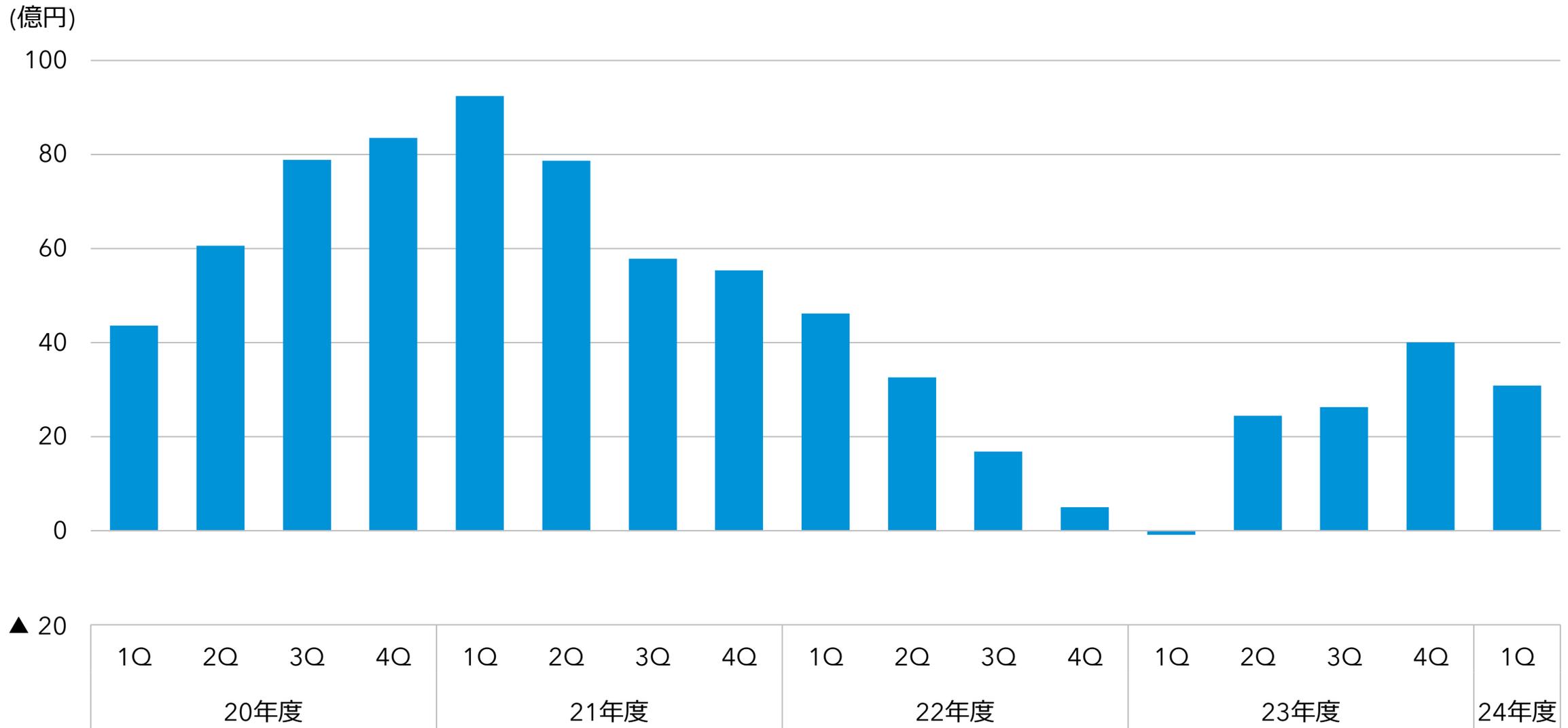
*リチウムイオン電池セパレータ



2025年3月期 通期予想

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策、製品価格の改定を進めることにより、営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

(参考) 四半期別営業利益推移



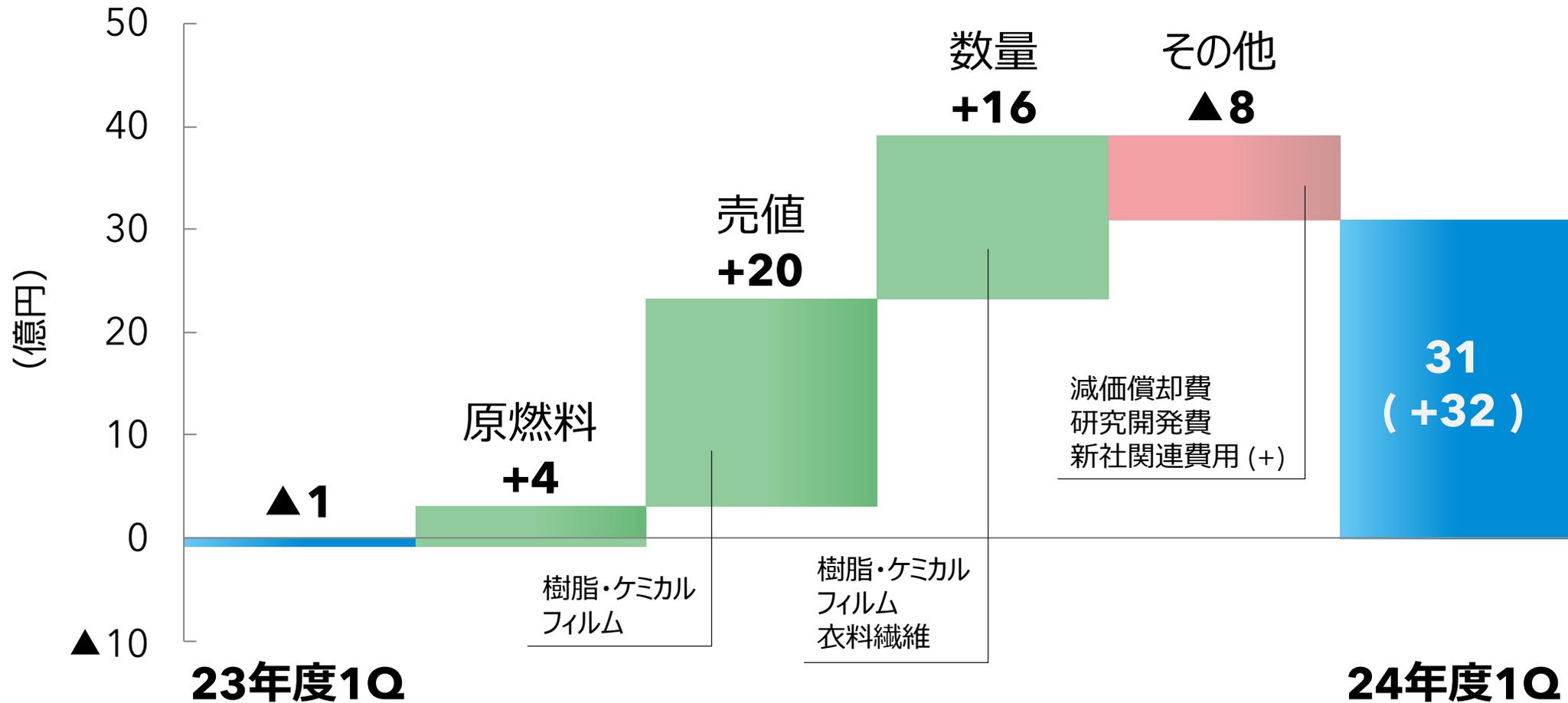
決算サマリー | PL

TOYOTO

(億円)

	23年度 1Q	24年度 1Q	増減	
			金額	率
売上高	971	1,052	+81	+8.4%
売上総利益	191	231	+40	+21.1%
(率)	19.6%	22.0%	-	-
営業利益	▲ 1	31	+32	-
(率)	-	2.9%	-	-
経常利益	▲ 3	20	+23	-
特別損益	▲ 5	1	+6	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲ 5	8	+13	-
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	44	87	+43	+96.2%
EPS (円)	▲ 5.8	8.9	-	-
減価償却費	45	56	+11	+24.1%
設備投資	108	138	+30	+27.8%
研究開発費	34	37	+3	+8.2%

営業利益の増減要因



	22年度		23年度				24年度
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
為替レート (円/US\$)	141	132	137	145	148	149	156
国産ナフサ (千円/kl)	72	67	67	64	73	73	79

(億円)

		(B)	(A)	
	23/3末	24/3末	24/6末	増減(A)-(B)
総資産	5,889	6,070	6,115	+46
現預金	607	338	318	▲ 20
棚卸資産	1,219	1,220	1,210	▲ 9
有形固定資産	2,402	2,815	2,904	+90
純資産	2,214	2,301	2,308	+7
自己資本	1,896	1,970	1,961	▲ 9
うち利益剰余金	705	703	676	▲ 27
非支配株主持分	318	331	347	+16
有利子負債	2,294	2,492	2,605	+112
D/E レシオ	1.21	1.26	1.33	-
Net Debt / EBITDA倍率*	5.8	7.5	6.6	-

* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益		
	23年度 1Q	24年度 1Q	23年度 1Q	24年度 1Q	増減
フィルム	390	421	12	15	+3
ライフサイエンス	81	81	14	4	▲ 10
環境・機能材	250	281	▲ 7	13	+19
機能繊維・商事	222	240	▲ 7	2	+9
不動産・その他	28	29	4	5	+1
消去・全社	-	-	▲ 17	▲ 7	+9
合計	971	1,052	▲ 1	31	+32

	23年度	24年度	増減 (億円)	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	390	421	+31	+8.0%
営業利益	12	15	+3	+21.2%
(率)	3.2%	3.6%	-	-

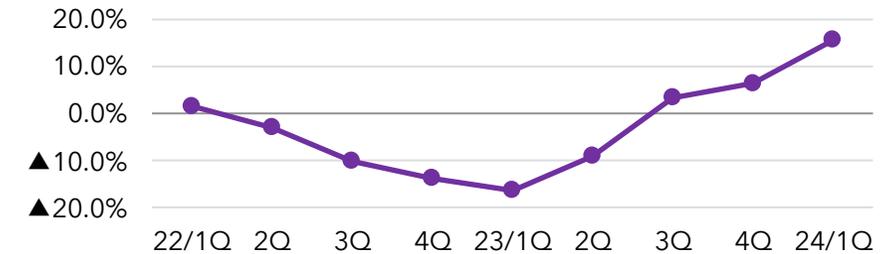
包装用フィルム

- 流通在庫の調整が完了し、荷動きは緩やかに回復するも、コスト上昇の影響あり

工業用フィルム

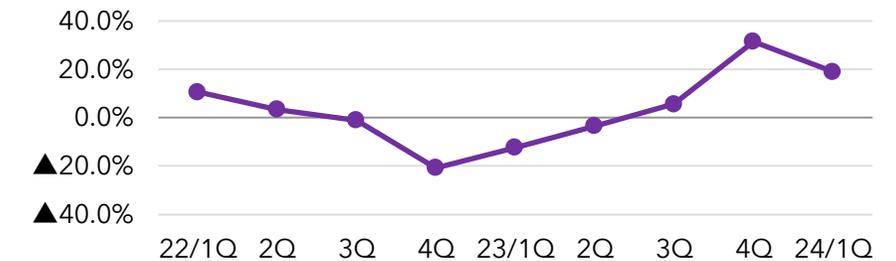
- 液晶偏光子保護フィルムは、強い需要に牽引され堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、サプライチェーン全体の在庫調整は完了するも、本格的な需要回復に至らず

食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (YOY増減率)



出所：日本ポリプロピレンフィルム工業会・会員出荷統計をもとに当社作成

日本からのMLCC輸出実績 (YOY増減率)



出所：財務省貿易統計をもとに当社作成

	23年度	24年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	81	81	▲ 1	▲ 0.8%
営業利益	14	4	▲ 10	▲ 72.2%
(率)	16.6%	4.6%	-	-

(億円)

バイオ

- 診断薬用原料酵素は欧米向けを中心に堅調に推移するも、生産能力増強に伴う費用が増加

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の需要は堅調に推移するも、一貫生産工場の立上げ費用が増加

医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）を受け、収益性改善

	23年度	24年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	250	281	+31	+12.3%
営業利益	▲ 7	13	+19	-
(率)	-	4.5%	-	-

(億円)

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、北米向け自動車用途の販売が拡大。ISO9001認証を再取得 (2024年5月)
- 水現像型感光性印刷版用途の光機能材料は、中国、欧州向けの販売が堅調

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置の販売が増加 *リチウムイオン電池セパレータ
- 高機能ファイバーは、“ツヌーガ”が耐切創手袋用途において需要回復
- 不織布マテリアルは、自動車用途の需要が回復

	23年度	24年度	増減		(億円)
	1Q	1Q	金額	率	
売上高	222	240	+19	+8.5%	
営業利益	▲ 7	2	+9	-	
(率)	-	0.8%	-	-	

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、堅調な需要により販売が増加
- 国内生産拠点の集約などの事業構造改革により、収益性改善

エアバッグ用基布

- 製品価格の改定が進み、収益性改善

2024年度の事業環境見通し

セグメント	事業	当初想定（2024年5月時点）	見通し	
			対想定*	当初想定との差異
フィルム	包装用	在庫調整を終え、緩やかに回復へ	－	在庫調整終え、緩やかに回復へ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要	－	需要堅調
		MLCCは年度後半から需要回復	－	年度後半から需要回復
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	－	需要は堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移	－	需要は堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産は堅調に推移	－	海外中心に堅調に推移
		電子材料用途の需要回復	－	需要回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置の需要堅調	－	需要堅調
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	－	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産は堅調に推移	－	堅調に推移
共通		国産ナフサは高止まり、石炭価格は落ち着く	▲	国産ナフサ価格が上昇（製品価格の改定で対応）

* 当初想定に対し、○：改善・拡大、－：想定通り、▲：悪化・減少 12

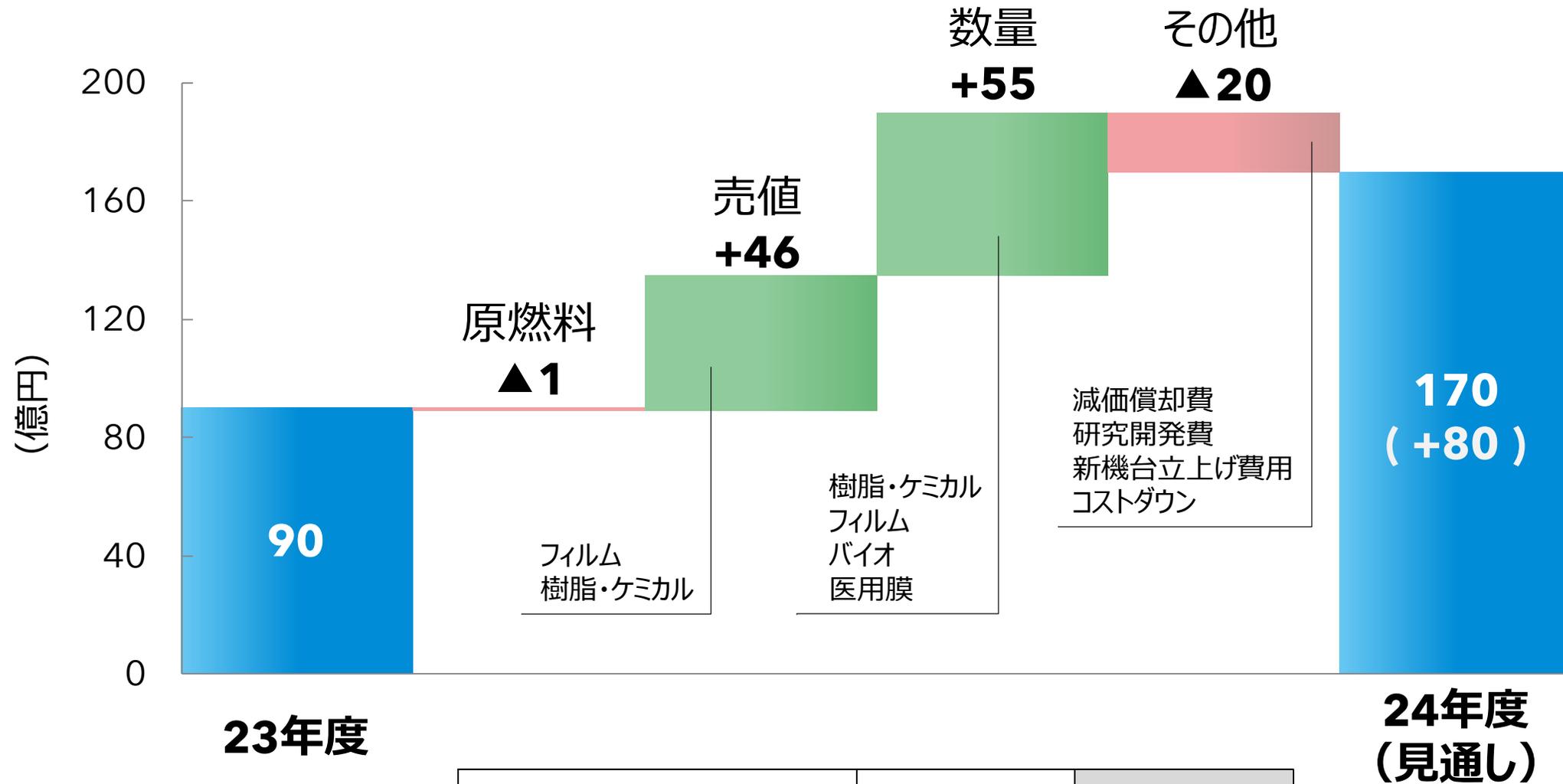
2024年度 業績見通し

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策、製品価格の改定を進めることにより、営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

	23年度	24年度	増減		(億円)
	実績	見通し	金額	率	直近予想 (24/5)
売上高	4,143	4,350	+207	+5.0%	4,350
営業利益	90	170	+80	+89.0%	170
(率)	2.2%	3.9%	-	-	3.9%
経常利益	70	115	+45	+65.2%	115
特別損益	▲ 14	▲ 36	▲ 22	-	▲ 38
親会社株主に帰属する当期純利益	25	26	+1	+5.9%	26
EBITDA	288	405	+117	+40.6%	405
EPS (円)	27.9	29.5	-	-	29.5
減価償却費	198	235	+37	+18.6%	235
設備投資	616	500	▲ 116	▲ 18.8%	500
研究開発費	153	160	+7	+4.5%	160

■ 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新

営業利益の増減要因



	23年度	24年度
為替レート (円/US\$)	145	152
国産ナフサ (千円/kl)	69	75

セグメント別見通し

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (24/5)
	23年度 実績	24年度 見通し	23年度 実績	24年度 見通し	増減	
フィルム	1,565	1,700	27	73	+46	73
ライフサイエンス	346	380	44	37	▲7	37
環境・機能材	1,153	1,200	47	80	+33	80
機能繊維・商事	957	950	▲10	0	+10	0
不動産・その他	122	120	30	25	▲5	25
消去・全社	-	-	▲48	▲45	+3	▲45
合計	4,143	4,350	90	170	+80	170

補足

セグメント別情報

TOYOB0

(億円)

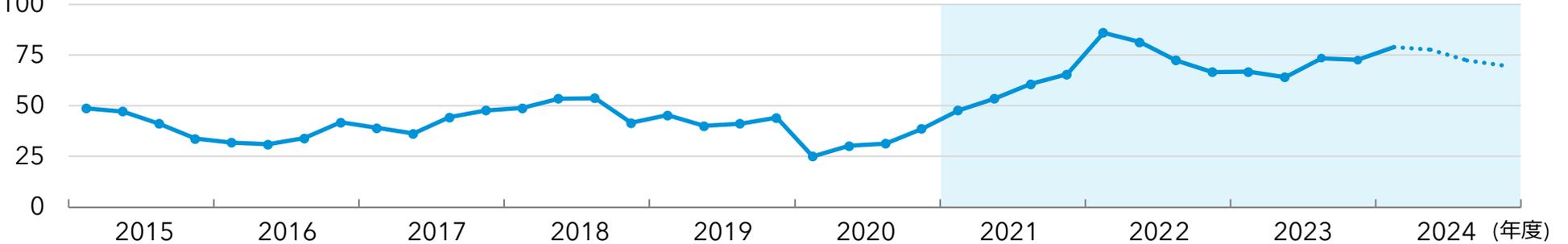
売上高	23 年度					24 年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム	390	391	393	391	1,565	421
ライフサイエンス	81	84	87	93	346	81
環境・機能材	250	276	336	292	1,153	281
機能繊維・商事	222	235	232	268	957	240
不動産・その他	28	38	30	26	122	29
消去・全社	-	-	-	-	-	-
合計	971	1,024	1,079	1,069	4,143	1,052

営業利益	23 年度					24 年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム	12	2	1	12	27	15
ライフサイエンス	14	10	11	10	44	4
環境・機能材	▲ 7	10	26	17	47	13
機能繊維・商事	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	▲ 10	2
不動産・その他	4	10	7	9	30	5
消去・全社	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 48	▲ 7
合計	▲ 1	24	26	40	90	31

原燃料価格高騰に対する価格改定

■ 国産ナフサ価格

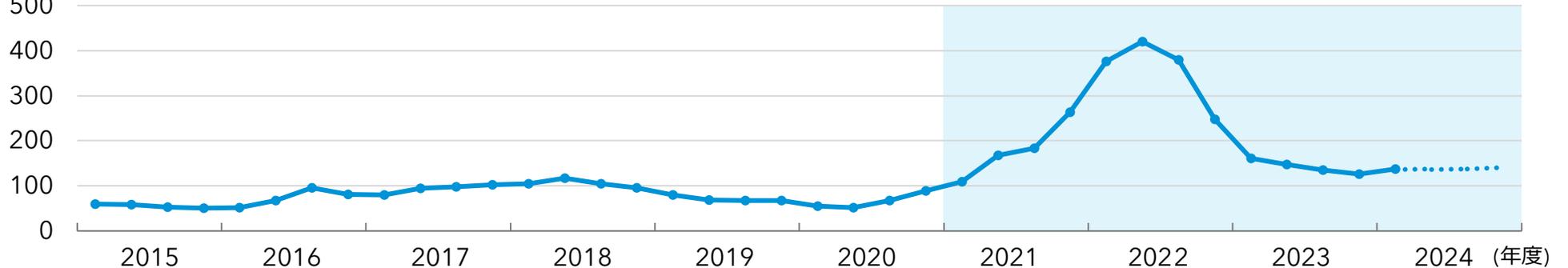
(千円/kl) 100



■ 石炭価格

(豪州一般炭市況価格)

(\$/t) 500



■ 当社「原燃料」「売値」影響

(前年度比増減)

(億円)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
原燃料 (A)	+71	+41	▲ 37	▲ 45	+29	+56	▲ 112	▲ 170	▲ 10	▲ 1
売値 (B)	▲ 61	▲ 25	+16	+12	▲ 5	▲ 38	+47	+119	+44	+46
スプレッド (A+B)	+10	+16	▲ 21	▲ 33	+24	+18	▲ 65	▲ 51	+34	+45

GPIF が採用する 6 つの ESG投資指数すべての構成銘柄に継続選定

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数
- MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)
- S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- Morningstar 日本株式 ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数 (除くREIT)



2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

高分子フィルム関連技術が「グローバルスコア 特許総合ランキング」1位を獲得 ((株)パテント・リザルト調査)

- 主要4か国・地域 (日本、米国、欧州、中国) の高分子フィルム特許の注目度を得点化。質と量の総合評価
- 評価された技術
 - ✓ ガスバリア性と耐熱性を持ち、低コストで高い加工性を実現可能なポリプロピレンフィルム
 - ✓ 強度と柔軟性を兼ね備え、有機化合物の吸着が少ない特性を持つポリエステル系シーラントフィルム など

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons